

<認知症対応型共同生活介護用>

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0175400472
法人名	有限会社 まつお
事業所名	グループホーム はな 佐呂間
所在地	常呂郡佐呂間町字宮前162-13 (電 話) 01587-2-1787
評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年12月10日

【情報提供票より】(21 年 11 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 10, 9 人		

(2)建物概要

建物構造	軽 量 鉄 筋 造 り		
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	3,000～17,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(11 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小田医院 ・ 谷津歯科医院
---------	---------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはな佐呂間は、佐呂間町中心部より南部に位置し住宅地の中にあります。広大な敷地の一角にホームがあり夏場はひまわりに囲まれた、開放感のある建物は洋風の2階建て回廊式の2ユニットになっています。南側に向けた大きな窓から陽が入る明るい雰囲気のリビングでは、ボランティアのフラダンスや大正琴が行なわれています。職員は、利用者のペースに合わせ笑顔で接する事を心掛けています。利用者と一緒に畑で栽培し収穫したきゅうり・芋・カボチャ・茄子・苺・トマト・とうきび等を調理したりと役割を持った生活を心掛け、安心して暮らせる支援をしています。開設して4年目に入り周り、地域との協力と理解を深めることを目指し、昨年新たに創った理念にある「安心して共に過ごせる思いやりと笑顔の和」を軸に取り組んでいます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による課題については、運営推進会議の定期的な開催、外部研修の積極的な参加と内部研修での報告で共有共、改善点に前向きに取り組んでいる姿勢が見られます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価への取り組みは、管理者が内容を取り纏め、その後職員に周知確認し、利用者・家族の意見・要望を謙虚に検討し、地域の人々に理解・支援される良いホーム創りを目指しています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	地域の理解や支援を得る取り組みとしての運営推進会議は、家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・町介護保健福祉課・管理者・職員で構成され、行政に相談をしながら11月から定期的に開催する方向で検討しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関に意見箱を設置していますが利用はなく、職員は家族の面会時に利用者の様子を伝えたり、家族の要望を聞入れる体制が出来ています。年4回のホームだより「はなさるま」と個人別のたよりを発行し、情報を公開する事でより良い家族との関係を築く取り組みが見られます。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

(有) NAVIRE

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「安心して共に過ごせる思いやりと笑顔の和」を掲げ、地域の中で利用者が安心して穏やかに暮らすことを目指し取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールや事務所に掲示されており、毎朝職員は利用者と一緒に唱和し、ミーティングや申し送り時に話し合い理念に添ったケアサービスに取り組むことを確認しています。管理者は職員の生き活きとした表情が良い環境・ケアに繋がると考え、職員が働きやすい環境整備に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動(道路清掃)に参加したり、散歩や日常の挨拶で馴染みの関係を築いています。近くの保育園児との交流や高校生のボランティア活動(窓ふき・ハンドベル・利用者と一緒に貼り絵)の受け入れがされています。又、ホーム行事(盆踊り)には近隣の方の来訪もあり地域との連携を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価を実施する意義については理解していますが、自己評価は管理者が作成し職員は閲覧にて確認し、周知しています。外部評価の課題については職員は目標に掲げ取り組んでいます。	○	自己評価については全職員で取り組み、サービスの質の向上に活かすことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーの都合等で今年11月に1回目を開催し、ホームの活動・行事の実施状況・理念・認知症などについて報告し、意見交換が行われ22年1月に2回目を予定しています。議事録は作成されていますが、欠席した家族に配布されていません。	○	地域の理解や支援を得るための貴重な機会として定期的(年6回)な開催を目指すと共に議事録は出席者だけではなく家族全員に配布するなど情報の共有に努め更に活発な意見交換によりサービスの質の確保・向上に活かすことを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はその都度町の担当者等と連携を図り、相談や情報収集に努めサービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	はな便り(年4回)や個人便り(誕生日)を発行し、日常の様子を報告するとともに家族の訪問時に健康状態・金銭管理について報告しています。又、状況に応じてその都度報告がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口については契約時に家族に伝えていますが、苦情処理箱も設置していますが、実際の利用はなく家族の訪問時に何でも言って貰える環境作りに努め、ケアプラン説明時に意向を確認し取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はユニット毎固定していますが、職員は自由に行き来するなど馴染みの関係を築き、利用者へのダメージを防ぐ配慮がされています。新人採用時は研修期間の中で利用者に理解が得られるよう他の職員がサポートしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修についての情報提供に努め職員の参加を支援しています。参加した職員は報告書を作成し業務の引き継ぎの中で伝え、資料等の閲覧にて情報の共有がされています。又、状況に応じてその都度勉強会を行い内部研修に繋げています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や研修会に参加するとともに社会福祉協議会主催の2級ヘルパーを受講する中で他グループホームへの実習・見学が行われ交流が図られています。又、町の特別養護老人ホームとは必要に応じて相談・情報提供に努めています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・本人に見学してもらい他利用者と関わる時間をとったり、家族からの情報収集や生活歴の把握に努め本人が安心して暮らせるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と過ごす中で料理の作り方や野菜の保管等の知恵や知識を学び、支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者の会話や表情・言動・家族からの情報収集に努め、自分らしく生活ができるよう支援しています。		
を					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報からの課題分析や利用者の状況、家族・本人の意向を把握し、サービス担当者会議で話し合い利用者本位の計画を作成しています。又、介護計画書等は大きく見やすい工夫がされており家族に分かりやすく説明し、内容について一緒に話し合いが行われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月毎)に見直しを行い、職員は常に利用者のケアプランに沿った記録を心がけています。ケアマネジャーはその記録を参考に状況を把握し、状態に変化が生じた場合はその都度話し合い新たな計画を作成しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買い物・ドライブ・利用者家族の宿泊対応等利用者や家族の要望や状況に応じ、柔軟な支援に取り組んでいます。冬期間の除雪を地域住民と一緒にしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医と連携をとりながら支援し、状況に応じて家族に連絡がとられています。往診(2週間に1回)や看護師の免許を持っている職員、地元の看護師に相談するなど健康管理がされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期についての意向を家族に確認しています。4月にターミナルケアが実施されており、ホームで家族も一緒に利用者と過ごす中で本人・家族にとって一番良い対応についてその都度話し合い、方針を共有し支援されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を傷つけることのないよう言葉かけ、接し方等に配慮しています。又、日々の記録や保管場所にも注意を払い、個人情報の取り扱いについては事前に説明し、同意書を交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決まっていますが、職員は散歩・食事・編み物等、利用者の状況や生活習慣をふまえ、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを利用者と相談をしたり、職員が交代で献立を考えています。職員は利用者と同じ食卓につき、声かけ等の工夫をし、食事が楽しくなるよう心がけています。又、一人ひとりの力量に応じて調理や後片付けなどを職員と一緒にしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっていますが、利用者の希望で自由な時間帯で入浴しています。又、足浴・シャワー浴の希望にも応じています。入浴拒否の方には他利用者の協力を得たり、声かけ・タイミングの工夫をし、週2～3回の入浴を支援しています。脱衣室に音楽が流れるなどの配慮がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や趣味(掃除・調理・テーブルふき・茶碗洗い・野菜の保管・編み物・裁縫等)を一人ひとりが発揮できるように場面作りを大切にしています。季節に応じた行事(もちつき・カルタ取り・かかし作り・花火・盆踊り等)を利用者の楽しみ、気晴らしに繋げています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調・天気を考慮しながら散歩・買い物・外気浴等の支援をしています。又、夜のカボチャ祭り見学や遠出のドライブも利用者の楽しみとなるよう取り組んでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間(21:30～6:30)は施錠していますが、日中は鍵をかけないケアを実践しています。一人で外出する利用者には見守り等で安全確保に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て年2回の通報・避難・消火訓練を実施しています。緊急マニュアル・連絡網を作成し、中には近隣住民の名前も含まれており、スプリンクラーも設置されています。救急救命については、来年春再度受講を検討しています。	○	いつ発生するか予測できない災害については夜間等、あらゆる事態を想定した訓練を検討し、利用者・家族・職員の安全に繋げるとともに、地域住民が訓練に参加して貰える体制の整備を期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・血圧等を毎日生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、支援しています。又、一人ひとりの状態に応じたきざみ・おかゆ・ペースト等で摂取しやすい配慮がされています。受診時に医師のアドバイスを得るなど、栄養が偏らないようバランスのとれた食事内容を心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中多くの時間を過ごす居間にはソファや花・植物が置かれ、広いベランダと天窓から初冬の柔らかい光が差し込み、明るく家庭的な居心地の良い空間になっています。又、職員と利用者が一緒に作成した季節の作品等が飾られており、トイレは複数の場所に設置されるなど利用者が生活しやすいよう工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた馴染みの物が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう工夫しています。又、職員による誕生日プレゼントが壁に飾られ、日々の和やかさが感じられます。		